

(様式第1号)

平成29年度第1回芦屋市公民館運営審議会 会議録

日 時	平成29年8月24日(木) 午後1時30分～午後3時
場 所	市民センター203室
出席者	委員長 西本 望 副委員長 鹿野 玲子 委 員 仁田 泰美 野村 克彦 深田 美香 事務局 福岡教育長, 川原社会教育部長, 高田公民館長 高橋管理係長 公民館講座等事業受託者(河内厚郎事務所) 河内代表, 岩城業務責任者, 小西, 蓮沼 欠席委員 永松 博文, 今西 幸蔵
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍聴者	0人

1 会議次第

(1) 報告事項

ア 平成29年度 芦屋川カレッジ及び大学院, 春の公民館講座等の実施状況について(資料1)

(2) 協議事項

ア 秋の公民館講座等の実施について(資料2)
イ その他

2 提出資料

資料1 平成29年度 芦屋川カレッジ及び大学院, 春の公民館講座等の実施状況

資料2 秋の公民館講座等の実施

3 会議内容

(1) 委嘱状交付に続き, 教育長あいさつ

(福岡教育長) 本日はお忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。これまでの公民館運営審議会において, 市民センターのあり方についてさまざまな議論をいただき, 委員の方々や教育委員会の思いにより, 指定管理を導入しないと方向づけました。10年先はわかりませんが, 今までの実績があるため現体制を維持していきましょうとなりました。芦屋市民にとって市民センターは誇れる場所であり, 市民センターに行けばなにか楽しみがあるという施設であってほしいです。芦屋川に

は市民センターがあるという象徴でもあると思います。

芦屋市教育振興基本計画にあります「教育のまち芦屋」というのは、就学前や学齢期の子供達だけの教育を指すのではなく、生涯にわたり学ぶことができることが大切だと思います。これからの高齢化の時代に向けて、企業で活躍され退職された方が、市民や地域に対して今までの経験を活かしていただきたいと思います。それを「知の循環型」と呼んでいますが、お互いにとって有効な手段になります。この市民センターは、学齢期の子供達を含めた大きな集合体の中で、芦屋市民に対しての役割があるため、指定管理にするのではなく、新たな学ぶ場の提供を行うことが求められています。そのためには、この公民館運営審議会において、さまざまな意見をいただき、この市民センターを生涯学習できる場として活かしていただきたいと思います。

<事務局職員の自己紹介>

<委員の自己紹介>

(2) 委員長・副委員長の選出

(高田公民館長) 新しい委員での開催ですので、委員長決定まで、僭越ながら私の方で進行させていただきます。まず、この審議会の委員長と副委員長の選出について、互選でお決めいただく必要がありますので、ご協議よろしくお願ひします。

<委員間で協議>

(高田公民館長) ご協議いただきましたが、委員長に西本望委員、副委員長に鹿野玲子委員でしょうか。それでは、お諮りします。委員長には西本望委員が就任することによろしいでしょうか。

<「異議なし」の声おこる>

(高田公民館長) それでは、公民館運営審議会委員長には、西本望委員が就任することを決定しました。次に、副委員長についてお諮りします。副委員長には鹿野玲子委員が就任することによろしいでしょうか。

<「異議なし」の声おこる>

(高田公民館長) それでは、公民館運営審議会副委員長には、鹿野玲子委員が就任することを決定しました。それでは、西本委員長、代表して就任のご挨拶をいただければ。

(西本委員長) 今期の委員長に指名されました西本望と申します。よろしくお願ひします。私は、この芦屋市立公民館には特別な思い出がありまして、児童期から近隣市に住んでいましたが、この公民館をよく利用してまして、思い出がありますので少しでも貢献できればと思っています。

芦屋市は全国的なブランド力のある市ですから、先進的な教育を行っていただきたいと思います。公民館は生涯学習の場ですので、高齢者の方にもご利用いただき学んでいただくことを望んでいます。少しでも芦屋市立公民館が良くなれば、全国の模範となりますので、委員の皆さまの御協力をお願いいたします。

(高田公民館長) ありがとうございます。ここからは西本委員長に議事の進行をお願いいたします。

(3) 議事

(西本委員長) それでは、平成29年度第1回芦屋市立公民館運営審議会の議事を進行い

たします。本日の出席委員は7名のうち5名出席しておりますので、この会議は成立しています。この会議の公開についての取り扱いは、芦屋市情報公開条例第19条に基づき、原則公開となっております。審議会を公開することによろしいですか。また、会議録の公表についても、発言者の名前も公表しますのでご了承ください。

<委員同意>

(西本委員長) 会議録は公開することと決定いたします。また、傍聴者の方がおられる場合は入場いただきます。

(高田公民館長) 傍聴者はいらっしゃいません。まず、資料の確認をお願いします。

<資料の確認>

(西本委員長) それでは、議事に入ります。報告事項の、ア平成29年度芦屋川カレッジ及び大学院、公民館講座等の実施状況について、事務局から説明をお願いします。

(高田公民館長) ご説明いたします。公民館講座事業は民間事業者へ業務委託しています。委託先は河内厚郎事務所です。内容をわかりやすくするために、委託事業者も出席しており、説明もお願いしようと思います。ご了承くださいますようお願いいたします。

<委員同意>

(高田公民館長) それでは、委託先である河内厚郎事務所から説明します。

(河内厚郎事務所・岩城) 資料1をご覧ください。今年度の芦屋川カレッジは定員が110名に対して74名の申込みがあり、現在、受講中です。定員に満たない部分については、聴講生で定数を超えて受け入れております。コースについては、去年度と内容を変えまして、「和文化探訪コース」と「世界探訪コース」と2つのコースとしております。

(河内厚郎事務所・小西) 次に、カレッジ大学院は、日本と世界の舞台芸術という内容で、定員が100名に対して114名の方に受講いただいております。

(河内厚郎事務所・蓮沼) 今年度の公民館講座の特徴は、従来、半年間で区切っていたものを春・夏・秋の3区分とし、講座の数を増やしております。具体的には、阪神間ゆかりの作家たちというテーマで文学関係の講座を産経新聞特別編集委員の石野先生にお願いしました。サイエンス講座は去年度から増やしていますが、和歌山大学医学部の仙波先生に講義いただき、大変好評でした。日本近代史講座は、関西学院大学文学部教授の高岡先生に講義いただき、経済学講座については、関西学院大学経済学部の久保先生に講義いただきました。心理学講座は、神戸大学大学院人間発達教育学研究科の加藤先生に講義いただき、死生学については、関西学院大学人間福祉学部の藤井先生に講義いただきました。これらが新しい講座となります。従来からの人気講座については、今後も実施して定着させたいと思います。

(河内厚郎事務所・小西) 講演会、公開セミナーについては、世界が認めたケーキの街芦屋を株式会社シュゼットのパティシエの方に来ていただき、飴細工の実演をしていただきました。また、美術博物館の催しに合わせて「春ひらく 芦屋のたからもの」展のセミナーを行いました。次に、公民館音楽会は2つ行いました。一つは芦屋市にお住まいだった貴志康一さんの関連イベントとして北浦さんらを招いてバイオリ

ンとピアノの演奏をしていただきました。もう一つは、竹中真さんによるジャズコンサートを行いました。

(河内厚郎事務所・蓮沼) 平和事業としましては、五島さんによる「メルシェ神父の生き様と時代背景」を講義いただきました。もう一つの平和事業で、私の扱った戦争と平和に関する本において、栗田さんにご講演いただきました。詳細につきましては、資料2の新聞記事を参考に見ていただければと思います。次に展示事業ですが、阪神間文化に見る大戦下の街と暮らしを実施し、また、芦屋のペット大集合展では、芦屋市在住の作家の榎野先生からもご提供いただきました。榎野先生は、芦屋市を題材とした「最後の晩ごはん」という小説を書いておられます。その小説に登場する芦屋市内の場所を紹介するパネルも同時に展示しました。

(河内厚郎事務所・岩城) 夏休み子ども教室ですが、去年度より申し込み方法を変更しました。以前は、一つのFAXで申込用紙に複数講座を申し込むことができ、希望でなかった講座が当選した場合は、当日欠席されるという傾向がありました。今年度は、手数料がかかる方法になりますが、往復はがきに記入いただき、希望する講座1つに対して1枚使用いただくようにしました。そのため、応募者数は減少しましたが出席率は向上し、定員も満たす結果となり、良かったと思います。講師は、今年は芦屋川カレッジの学友会の方に水彩画と書道教室で担当いただきました。概ね参加者からもご好評をいただいております。

(河内厚郎事務所・河内代表) 去年度に、夏休み子ども教室で大倉源次郎先生にお越しいただき、小鼓教室を開催しました。大倉源次郎先生は、この度、人間国宝になられるそうです。今後も古典芸能についても着目していきたいと思っております。

(河内厚郎事務所・岩城) 今年度の阪神くすの木学級は、三田市で開催します。阪神南青い鳥学級は、芦屋市で開催します。芦屋市からは10名参加希望が出ております。

(高田公民館長) 公民館の事業ですが、以上のとおりほとんどを委託しておりますが、あと、公民館図書室があり、こちらは市の直営の事業となっております。平成29年度芦屋川カレッジ及び大学院、公民館講座等の実施状況についての説明は以上となります。

(西本委員長) 事務局からの説明が終わりました。委員の皆さまからのご意見・ご要望などありましたらお願いします。

(野村委員) 新しい委員の方もおられますので補足としましては、芦屋川カレッジについては、芦屋市内に在住の方で60歳以上の方で初めて受講される方が対象となっております。芦屋川カレッジ聴講生と芦屋川カレッジ大学院生は、すでに芦屋川カレッジで学ばれた方を対象に募集しています。間違いはないですか。また、今の説明では、芦屋川カレッジのみ申し込みが定員に満たないということですね。過去の申込者の推移がわかるものは提示いただけますか。

(河内厚郎事務所・岩城) 受講可能な対象者については間違いありません。芦屋川カレッジの申込者ですが、手元の資料でわかるものを回答いたします。昨年度は91名です。2年前は130名の応募があり、抽選の結果、110名が受講されています。

(野村委員) 60歳以上の人口は増えていますが、芦屋川カレッジの申込者がここ数年減

っているという事実をどのように分析をされていますか。

(河内厚郎事務所・河内代表) 前回の会議でもご質問いただいておりますので、調査させていただきます。調査対象は近隣市の4か所の高齢者大学です。

(河内厚郎事務所・小西) 詳細につきましては、私から説明いたします。

調査しましたのは、兵庫県が実施している阪神シニアカレッジと西宮市の「宮水学園」、神戸市の「いきいき勤労大学」、同じ神戸市の「シルバーカレッジ」の4か所です。主に各高齢者大学に出向き、聞き取り調査を行いました。結果は、他の高齢者大学も減少傾向にあります。コースによっては定員割れしている状況です。全国的に高齢化社会になっていますが、高齢者大学に入学する高齢者の年齢もおおよそ70歳近くになっていることも参加者が減少している要因の一つと思われます。他の要因とすれば、可処分所得の減少も考えられます。それに加え、団塊世代の対象者は個人志向の方が多く、拘束されることを嫌う傾向にあります。対策としては、自由に学べる環境を整えるなど工夫する必要があると考えます。例えば、西宮市の「宮水学園」は再受講を認めており、年間2300人ほど受講されております。必須コースが年間11回と選択コースが15回となり、料金も1回200円ほどです。このようにハードルを下げる方法もありますが、芦屋市として卒業生の同期会と学友会を尊重していく必要もあります。あくまで、芦屋川カレッジは生涯学習への入口となり、その後、大学院や公民館講座に参加いただけるようにするにはどのようにすればいいのか、検討する必要があります。

(野村委員) よくわかりました。団塊の世代は、ものの考え方が個人主義的なので、集まって何かをするということを嫌う傾向があるというのは、大きな流れだと思います。そのようであれば、私たちとして何かできることがないのか検討する必要があります。また、具体的な話になりますが、芦屋川カレッジの受講料が2万円というのは他市と比べて高いのか安いのか検討してはどうですか。運用方法についても、個人で学びたいが、他人の世話をすることはやりたくないという考えもあります。聴講生は役割分担がなく参加するだけですので、ここ数年は増加しています。この辺りを運用面で導入できないかと思います。また、他市には学友会のような組織はありません。学友会は年間2千円で、毎月講演会もありますし、新年会や音楽会もあります。独自でされている公民館講座は、市民の方にどのように広報されているのか。どのように広報すれば参加者を増やすことができるのかを考えてみてはどうでしょうか。

(河内厚郎事務所・小西) 大学院の運営に関しては、6月に受講者に対してどのようなテーマにすればいいのかアンケートを取りました。大学院は世話係りを設けなくてもいいのではないという意見もいただきました。

(鹿野委員) お世話というのは具体的にどのようなことを指していますか。

(野村委員) 自分たちが学ぶために、講座の受付をすることや机を並べることや講師の先生の誘導をするなど、係別に皆さま担当を決めています。

(鹿野委員) そのことを負担に感じられている方がいるということですね。

(野村委員) 全員で分担を決めますので、係によっては人員が余剰になっている場合もあ

ります。係の中で年齢の若い方に負担がかかり、嫌がられているという傾向になっていると思います。芦屋川カレッジは初めて行うので必要かと思いますが、大学院は一度芦屋川カレッジで経験されているので、係までは不要ではないかと思います。(西本委員長) ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(野村委員) 受講料のことについてはすぐに結論は出ないと思いますが、受講者は減っている事実がありますので、受講者が減っても固定費はほとんど変わりませんから、たくさん来ていただきたいと思います。あとは、講座の内容を工夫することだと思います。

(河内厚郎事務所・小西) 問題点とすれば、教室の大きさが考えられます。今は401室で行っていますので、机と椅子を並べますと100名程度となります。これよりも受け入れ人数を増やそうとすれば、ルナ・ホールで行うこととなります。西宮市のアミティホールは収容人数が1000名ほどのホールですので、希望があれば全員受け入れています。そのあたりも考えてみてはどうでしょうか。

(西本委員長) 芦屋川カレッジが減少すれば、大学院生や聴講生も減少していく可能性があるのでは。

(河内厚郎事務所・小西) 大学院の場合は、芦屋川カレッジの卒業生ですから何度も受講できますので、減少することはあまりないと思います。それよりも学友会の人数が減ることを懸念しております。

(野村委員) 学友会は卒業生の7割ほどが加入されています。その加入率を向上させる努力は必要と考えています。結論をすぐに出す必要はありませんが。

(深田委員) 奥池南町からバスに乗っていますが、ご高齢の皆さまがおしゃれをして同乗されていました。お話を伺うと、今から芦屋川カレッジに行きますと言われていました。一度卒業をしたのですが、再度受講していると言われていました。私自身は、そのような芦屋川カレッジがあること自体全く知りませんでした。どのように広報されているのでしょうか。私は、広報誌を見ているのですがあまり目に留まったことはありませんでした。何か広報する方法を工夫されているのでしょうか。いずれ対象となる年代の方もご存じないと思います。早めに情報提供してもいいのではないのでしょうか。

(河内厚郎事務所・小西) 現在は、毎年3月1日号に芦屋川カレッジと大学院の募集記事を掲載しています。それと同時に、集会所を含めて市内の広報掲示板に掲示しています。

(深田委員) 集会所に行かれる方など、よく外出される方は興味を持たれると思いますが、興味のない方を取り入れる方法を考えてみてはどうでしょうか。

(仁田委員) スポーツの世界でも同様なのですが、講座に来られる方はだいたい同じ方です。私が聞く範囲では、芦屋川カレッジがあるということをご存じで、知っていることがあたり前となっています。皆さまはコミュニケーションを取ることができるので、そのような方は芦屋川カレッジの良さはよくご存じです。ただ、今まで付き合いがなかった方が退職した時に、周りに聞く人がいなければ、なかなか情報を入手することは困難だと思います。ケーブルテレビを利用して広報はされていますか。

- (河内厚郎事務所・小西) 芦屋川カレッジを募集しますという内容では行っていません。
- (仁田委員) 知らない方たちを掘り起こすのは大変なことだと思います。
- (西本委員長) 通年募集をしているのですか。
- (河内厚郎事務所・岩城) いいえ。3月が申込期間となりますので、掲示されるのは3月末までの申込期間のみとなります。
- (西本委員長) 常にパンフレットを置くことや、掲示する方法があればいいと思います。
- (仁田委員) いろいろな施設に足を運ばれる方には効果がありますが、どちらにも足を運ばない方には広報できません。
- (野村委員) 今年は、5月までルナ・ホールが閉鎖されている期間がありました。学友会では、閉鎖期間中は東灘区のホールを借りてセミナーを行いました。来場者に来ていただくために、新聞の折り込みを利用しました。芦屋川カレッジについても、広報に折り込みで入れると全市民に広報できると思います。
- (河内厚郎事務所・河内代表) いろいろなイベントを行っていますので、新聞の折り込みは非常に効果があるのはわかっています。
- (高田公民館長) 時間の関係があり、芦屋川カレッジについては後ほどご議論いただきたいと思いますが、他の講座についてはいかがでしょうか。今年度の平和事業は力を入れています。
- (野村委員) 講座の区切りを半年から年3回に分けたのはいい考えだと思います。去年度より講座の回数は増えていますか。
- (河内厚郎事務所・蓮沼) 講座の数は5講座ほど増えています。講師を選ぶのが大変な作業です。
- (仁田委員) 私は震災前にタップダンスの講座の手伝いをしました。その時もたくさん申込されて抽選になりました。講座は6回行われましたが、最後まで盛況でした。私は地域で和太鼓を教えています、70歳代の方が大半です。古典芸能をするのは刺激になるのでいいと思います。
- (西本委員長) 次の議題、秋の公民館講座等の実施について、に移ります。事務局から説明をお願いいたします。
- (高田公民館長) 秋の公民館講座等の実施についても、内容をわかりやすくするために、委託事業者に説明していただきます。
- (河内厚郎事務所・蓮沼) 秋の公民館講座について、チラシをお手元に準備しております。10月から開始される講座については、9月1日の広報に掲載いたします。まず、非常に人気があります田辺先生の文化の歴史講座は、今回は「おんな城主直虎」をテーマとしております。次に、歴史を語る講座は、近現代史が主となりますが、こちらも従来から大変人気のある講座です。世界はニュースだけではわからないという時事経済講座は、ジャーナリストと研究者に講師として来ていただきますが、第1回目のみテーマが決まっています。こちらの講座も毎回、申込者が多数となっています。日本人の源流・神話を訪ねては、産経新聞の安本先生にお願いしております。次の講座からは、初めての講座となります。阪神間ゆかりの作家たちを3回行います。サイエンス講座の宇宙物理学入門は、甲南大学の須佐先生にわかりやすく

説明いただこうと思っています。

(河内厚郎事務所・岩城) 健康ハイキングの講座は、2年間行っていませんでしたが、要望があったため再開したものです。全部で9回行います。

(河内厚郎事務所・小西) 秋の公民館講座の開講記念講演となります「人生の真の価値」は、神戸学院大学の今西先生にお願いしております。生涯学習をテーマに「賢く、楽しく、善く生きるために」をテーマとしています。芦屋の映像コレクションについては、芦屋の情景を上映する予定としています。古典の日記念講演会の日本のきものは、恋もようは、去年の芦屋川カレッジ大学院の講座で好評でした関西学院大学の河上先生にお願いしております。江戸時代のきものに流行した文芸模様について講義いただきます。公民館音楽会は、ハッピーツインズ「情熱のヴァイオリンデュオ」については、現時点で申込者が150名を超えておまして、非常に人気があります。NHK公開講座については、2回を予定しています。京都国立博物館の「国宝展」とあべのハルカス美術館の「北斎」をテーマとしています。こちらも、現時点でたくさんの申込みをいただいております。ペットの写真展につきましては、現在行っております。最後に、9月20日から10月2日までに「碎花をめぐる文豪と文化人」をテーマに企画展示をします。こちらは、10月1日のルナ・ホール事業で行う「富田碎花と谷崎潤一郎」に合わせて行っています。谷崎潤一郎が富田碎花の旧居に住んでいたのは有名な話ですが、それより以前から交流がありました。谷崎潤一郎だけではなく、芥川龍之介も富田碎花が訳した詩集「草の葉」にも関係しており、それらを深く掘り下げて富田碎花という人物を知っていただくものです。

公民館事業ではありませんが、ルナ・ホール事業で、谷川俊太郎さんにお越しいただき、谷川俊太郎さんの詩の朗読と、学校でも歌われております「未来へ」を芦屋少年少女合唱団に歌っていただきます。同時に、富田碎花さんが作詞した芦屋市の精道中学校と宮川小学校と岩園小学校の3つの校歌を歌います。そのような企画を準備しています。

(高田公民館長) 説明は以上です。ご協議よろしく申し上げます。

(西本委員長) ただ今、事務局から説明をいただきました。この点につきまして委員の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。

例えば、講座が開かれる際に芦屋川カレッジの案内もしてみてもはいかがでしょうか。他市でも、人が集まるときに広報する手法は取られています。

(高田公民館長) そのようにしたいと思っております。芦屋川カレッジの受講希望者が減ってきているため、分析する必要があります。他市につきましても、名称はさまざまですが芦屋川カレッジと同様のものがあります。他市の実施状況についてばらつき、たとえば芦屋市の場合は、ここ教育委員会の公民館が担当しており、他市では福祉の高齢者の担当課が担当しているなど、状況は違いますが、どこでも受講希望者が減ってきている傾向にあります。全体の傾向を含めて分析していく必要があります。また、情報発信は、芦屋川カレッジの存在自体はできていても、常時目につく状態ではないと感じています。芦屋川カレッジの役割分担に関しては厳しいかなと思っています。高齢者大学で当然のことながら学んでいただくことも大事ですが、役割

分担の中で仲間意識を醸成いただくことも目指しています。ここはできるだけ、できれば、の部分ではございますが。民間のカルチャーセンターとの差別化も意識しており、あくまでもお客様としての参加いただくのではなく、公立の芦屋の高齢者大学として、係を決めて仲間づくりをしていただくようにしています。しかし、その役割分担が少し厳しすぎるかもしれません。

(野村委員) 芦屋川カレッジでは役割分担をし、仲間づくりを行っているため、卒業してから同好会が毎年1期で10個ほど作られています。問題があるとすれば、例えば、企画係に10名配置されたとしても、実動はそのうちの3名ほどです。先ほども少し申し上げましたが、高齢な方が若い方に任せてしまう傾向にありますので、若いうちには芦屋川カレッジに入りたくないと思うことはあると思います。それらは、良くも悪くも口コミで広がってしまいます。

(高田公民館長) 私はできれば今の芦屋川カレッジ、係の決めなどの仕組みは変えたくないと思っていますが、今後、どのようにしていくか検討していく中で問題点を整理したいと思います。

(野村委員) 今年芦屋川カレッジを卒業された方や、現在通っている方にアンケートを取ること必要ではないでしょうか。

(河内厚郎事務所・岩城) 今通っている方にお聞きするのはもちろんなのですが、芦屋川カレッジに来られない方々の意見も聞きたいです。双方の意見があれば客観的に分析できると思いますが、来ない方に「なぜ来ないのですか」と聞くのは難しいとも感じています。

(仁田委員) 女性の方の意見をよく聞くのですが、夫が退職した後はぜひ芦屋川カレッジに通わせたい。ただ、夫は地域にうまく溶け込めていないので行きたくないと言っているという話をよく聞きます。

(高田公民館長) 仲間づくりだけが目的ではありませんが、もう少しハードルを下げることも必要なのかもしれません。

(河内厚郎事務所・岩城) 内容を詰めすぎるのではなく、自由度のある内容にしてみてもいいかもしれません。

(高田公民館長) 役割分担に対してどれほど負担に感じられているのでしょうか。

(野村委員) 現実的に負担が生じていることはあります。年齢のより若い方に負担が偏っている事実はあります。制度としては問題ありませんが。

(高田公民館長) カレッジ内の役割分担に関しては引き続き検討の余地があると思っています。また、受講料についてですが、他市と比べると高くなっています。今までも受講生の意見を聞いた結果、講座のグレードが上がり、受講料が高くなってもいいので、いい講座を開催してほしいとの意見があり、受講料、市への収入としては以前どおりで値上げはしていませんが、実費負担、印刷費や活動費の部分で上げてきています。

(野村委員) 受講料については、検討の余地はあると思います。学友会のセミナーでは、大学の先生は3万円ほどの謝礼で来てくれていますし。

(高田公民館長) 芦屋川カレッジの受講生を増やす単純で安直な方法は、カレッジを修了

した方に再受講を認めることです。今は再受講を認めていませんので、もう一度学習したい方も受け入れることで受講生を増やすことができます。しかし、安直過ぎでちょっとどうか、とも思っていますが。

(野村委員) それ以前に、芦屋川カレッジのPRをどのように行うかだと思います。

(河内厚郎事務所・小西) 芦屋川カレッジの概要をまとめたものを作成しようと思います。

(野村委員) そういうものがあれば、学友会ニュースを学友会のメンバーで各戸配布していることもあり、その学友会のネットワークを活用して、配布する方法もあります。

(河内厚郎事務所・小西) 広報に関して様々な検討をする必要があると認識しています。

現在も検討しているところですが、例えば、必須コースの講座数を減らして入りやすくすることや、現在、カレッジ生は必須コースと選択コースの両方受講しなければならないところを、必須コースのみ受講できるようにすることや、選択コースは現在のカレッジ大学院に組み込んだ上で、ルナ・ホールにて開催することや、係の役割分担を行うのではなく卒業発表に置き換えることや、再受講の人数を絞って募集することなど、検討中の解決方法はあります。

(高田公民館長) この件、本日ご議論いただきましたが、はっきりした原因がわからず困っていますので、後日でも良いので、ご意見がありましたら事務局までご連絡いただけると助かります。

(西本委員長) そうしましたら、時間も迫ってまいりましたので、今日の議論はこれぐらいで終了したいと思います。次回の審議会の開催日程については如何しましょう。

(高田公民館長) 次回の開催予定ですが、来年の春以降の講座のご審議をいただきたいので、来年2月初めではいかがでしょうか。委員の方々の都合の良い日をお決め頂けますか。

<委員間で協議>

(西本委員長) それでは、2月8日(木)でいかがでしょうか。

<「異議なし」の声>

(高田公民館長) 事務局の都合で恐縮ですが、今日のように13時半からでよろしいでしょうか。

<「異議なし」の声>

(西本委員長) では、2月8日(木)13時半から公民館運営審議会を開催することに致します。本日の審議会を終了します。ありがとうございました。

<閉会>